

2. 因子分析による検討

●方法

本研究では、東京国際大学の学部生（1年生から4年生）を対象に、高校生が行う『悪いこと』についての質問紙調査を実施した。有効回答者数は753名（男子269名、女子484名）で、1年生227名（男子75名、女子152名）、2年生125名（男子48名、女子77名）、3年生114名（男子31名、女子83名）、4年生287名（男子115名、女子172名）であった。

〔質問紙の構成〕

・『悪いこと』に関する質問項目

まず、内山（1992）、安藤・斎藤・藤田（1997）らの先行研究を参考に、高校生が行う『悪いこと』の概念を収集・整理した。その結果、①非行（犯罪行為）、②不良行為、③性に関する行為、④有害環境との接触、⑤規律違反、⑥マナー違反、⑦公共の場での迷惑行為、⑧周りの人との調和を乱す行為、の8つの概念を設定した。これをもとに質問項目を収集・作成し、105項目を選択した（表4、5）。この105項目について、高校生が行った場合どの程度『悪い』と考えるかという質問を設け、6件法で回答を求めた。回答は、『非常に悪い』を6点、『かなり悪い』5点、『どちらかといえば悪い』4点、『どちらかといえば悪くない』3点、『ほとんど悪くない』2点、『全く悪くない』1点で得点化した。

●結果

上記105項目について因子分析（主成分分解・バリマックス回転）を行った。その結果、7つの因子が抽出された。各因子の寄与率（回転後）は、第1因子11.4%、第2因子7.2%、第3因子7.0%、第4因子5.8%、第5因子5.2%、第6因子4.8%、第7因子3.9%で、この7因子による累積の寄与率は、45.4%であった。

このなかには複数因子間にまたがる項目が多数あったため、共通性の低い項目（0.38未満）を除く85項目で再度因子分析を行った。その結果、上記と同様の7つの因子が抽出された。各因子の寄与率（回転後）は、第1因子11.5%、第2因子8.1%、第3因子7.4%、第4因子6.8%、第5因子6.2%、第6因子5.4%、第7因子4.0%で、この7因子による累積の寄与率は、49.3%であった。

●各因子について

①第1因子

第1因子に負荷量の高い項目は、『No.64風俗関係の店などに入入りする』『No.61風俗関係の店で働く』『No.62ブルセラショップなどに制服や下着を売る』『No.60テレクラに電話する』『No.30お金をもらって知らない人とセックスをする』『No.31お金をもらって知らない人とカラオケに行く』『No.59盛り場をうろつく』『No.63パチンコをする』あった。この

因子は、盛り場、風俗関係店など都市の有害環境に関連があり、また、テレクラ・ブルセラ・援助交際など高校生が安易に金銭を得る不良行為に高い負荷を示している。従って、この因子は『盛り場における金銭に絡む不良行為』と命名された。

②第2因子

第2因子に負荷量の高い項目は、『No.71公衆電話や道路標識などを壊す』『No.72夜中に近所に聞こえるほど大きな音で音楽を聴く』『No.70飲料水の空き缶を路上に捨てる』『No.75用もないのに知らない家のインターフォンを鳴らす』『No.45校内のガラスを割ったり物を壊したりする』『No.52下級生や後輩に無理なことを実行させる』『No.46授業中に私語をする』『No.51図書館の本を期限がきても返さない』などであった。この因子は、主に学校や近隣社会の日常生活において、他人の迷惑になったり社会常識に反する行為を表していた。従って、この因子は『学校・近隣における社会的迷惑行為』と命名された。

③第3因子

第3因子に負荷量の高い項目は、『No.84頭髮を染める』『No.85肌を黒く焼く』『No.81ピアスをする』『No.82高校生らしくない高価なものを持つ』『No.87露出度の高い服装で人前が出る』『No.83いれずみをする』『No.67クラブやディスコに行く』『No.66友達同士でゲームセンターに行く』であった。この因子は、自分の容姿・服装・持ち物などの外見を変えたり、有害環境と接触することで、高校生として許容される行動範囲を逸脱する行動に高い負荷を示している。従って、この因子は『おもに外見に関する逸脱行為』と命名された。

④第4因子

第4因子に負荷量の高い項目は、『No.39校則違反の化粧をする』『No.40学校が禁止している服装やヘアスタイルで登校する』『No.36学校をさぼる』『No.37授業をさぼってカラオケに行く』『No.38学校の先生の言うことに従わない』『No.4電車のキセルをする』『No.18他人の庭木の柿やリンゴを盗る』『No.69喫茶店やレストランの灰皿などを持ち帰る』などであった。この因子は、学校の規律や校則に違反したり、社会のルール・規範に違反する行為に高い負荷を示している。従って、この因子は『校則・ルール違反行為』と命名された。

⑤第5因子

第5因子に負荷量の高い項目は、『No.26友人をだます』『No.29友人を裏切る』『No.25友人の家庭の貧しいことや不幸なことを言いふらす』『No.33友人が困っているのに助けない』『No.32他人の触れられたくないことをしつこく聞く』『No.27他人の悪口や中傷をパソコンやインターネットで流す』『No.55責任を回避し、他人のせいにする』『No.98身障者や高齢

者をからかう』などであった。この因子は、友人との信頼関係を裏切ったり見捨てたりする行為や他人への中傷・誹謗行為など、人間関係を損なう行為に高い負荷を示している。従って、この因子は『対人関係を損なう行為』と命名された。

⑥第6因子

第6因子に負荷量の高い項目は、『No.11車内などで大声で話をする』『No.12車内で携帯電話を使う』『No.6電車の中などで服を着替える』『No.19電車の中など人前で化粧をする』『No.5電車の中などどこでも座り込む』『No.13電車やバスの中で大きな音でウォークマンを聴く』『No.22人通りの多い歩道を自転車で走り抜ける』『No.9自転車を違法に停める』であった。この因子は、主に交通機関の中や公共の場所での周りを省みない迷惑行為に高い負荷を示している。従って、この因子は『交通機関におけるマナー違反行為』と命名された。

⑦第7因子

第7因子に負荷量の高い項目は、『No.77シンナーを吸う』『No.76覚せい剤や麻薬を服用する』『No.16人を脅して金品をまきあげる(かつあげ)』『No.92親の財布から黙って金を持ち出す』『No.57図書館などで他人の持ち物を持っていく』などであった。この因子は法律に触れる犯罪行為に高い負荷を示している。従って、この因子は『犯罪行為』と命名された。

●各因子間の関係について

〔悪いことの認識度〕

①第1因子

第1因子『盛り場における金銭に絡む不良行為』の項目では、『お金をもらって知らない人とセックスする』については悪いこととしての認識度が高い(4.95±1.27)が、『お金をもらって知らない人とカラオケに行く』では4.17±1.33とやや低くなっている。ほかに悪いこととしての認識度が高い項目としては、『風俗関係の店で働く』(4.85±1.35),『ブルセラショップなどに制服や下着を売る』(4.64±1.39),『風俗関係の店に出入りする』(4.47±1.43)が挙げられる。一方、『盛り場をうろつく』(3.72±1.32),『パチンコをする』(3.53±1.35)は、悪いこととしての認識度がやや低い。

②第2因子

第2因子『学校・近隣における社会的迷惑行為』の項目は、悪いこととしての認識度にばらつきがあり、『校内のガラスを割ったり物を壊す』(5.57±0.67),『公衆電話や道路標識を壊す』(5.42±0.75),『夜中に大きな音で音楽を聴く』(5.09±0.79),『下級生や後輩に無理なことを実行させる』(5.08±0.83)は高く、『図書館の本を期限がきても返さない』

(4.23±0.88), 『授業中に私語をする』(4.02±0.96) は比較的低くなっている。

③第3因子

第3因子『おもに外見に関する逸脱行為』の項目は、ほとんどが悪いこととしての認識度が低く、『友人同士でゲームセンターに行く』(1.83±1.08), 『ピアスをする』(2.26±1.16), 『頭髪を染める』(2.41±1.20), 『クラブやディスコに行く』(2.45±1.29), となっている。そのなかで最も認識度の高い項目は、『いれずみをする』(3.29±1.45) であった。

④第4因子

第4因子『校則・ルール違反行為』の項目は、悪いことの認識度が中程度であった。そのなかでは『電車のキセル』(4.16±1.08), 『喫茶店やレストランの灰皿を持ち帰る』(4.15±1.06), 『他人の庭木の柿やリンゴをとる』(4.10±1.04) などが認識度が高く, 『学校が禁止している服装・ヘアスタイルで登校する』(3.59±1.08), 『校則違反の化粧をする』(3.60±1.06) は低かった。

⑤第5因子

第5因子『対人関係を損なう行為』では、いずれも認識の度合いが高くなっており、特に悪いことの認識度の高い項目は『身障者や高齢者をからかう』(5.74±0.58), 『他人の悪口をパソコンやインターネットで流す』(5.56±0.71), 『友人を裏切る』(5.39±0.80), 『友人をだます』(5.32±0.89), 『友人の家庭の不幸なことを言いふらす』(5.17±0.89) などであった。最も低い項目は『友人が困っているのに助けない』(4.65±0.93) であった。

⑥第6因子

第6因子『交通機関におけるマナー違反行為』の項目では、認識度の高い項目『車内で大声で話す』(4.37±0.98) をはじめとして、全体の平均が4前後であり、認識度は中程度であるが、『電車の中など人前で化粧をする』(3.37±1.17) のみが低くなっている。

⑦第7因子

第7因子は明らかに法律に触れる犯罪行為に相当する行為に関連しているため、悪いことの認識度が全体的に高めである。『人を脅して金品をまきあげる(かつあげ)』(5.85±0.47), 『図書館などで他人の持ち物を持っていく』(5.71±0.61), 『覚醒剤や麻薬を服用する』(5.76±0.70), 『シンナーを吸う』(5.75±0.69), 『親の財布から黙って金を持ち出す』(5.36±0.86) と、すべての項目で平均が5以上となっている。

〔悪いことの構造〕

第1因子の項目は、認識にばらつきがあり、援助交際、ブルセラショップ・テレクラなど風俗産業との接触は悪いこととして認識されているが、知らない人とのカラオケ、盛り場をうろつくこと、パチンコ等は悪いこととしての認識度が低くなっている。前者の項目群は、高校生が性を売り物として安易に金銭を得る手段であり、後者の項目群は、都市の有害環境との接触を意味するが、その両方を含むところがこの因子の特徴的である。つまり、高校生が、金銭と結びついた性に許容的になることと、都市の有害環境との接触に許容的になることが相俟って、援助交際のような性の商品化を生む土壌を形成していると推定される。

第2因子の項目は、学校内や近隣社会のなかで高校生が関わる可能性の高い非常識な行為や迷惑行為と関係している。第4因子（『校則・ルール違反行為』）の項目に近似しているが、第2因子は普通の高校生であっても関わる可能性の高い行為であるのに対し、第4因子の内容は、校則に違反したり、教師への反抗やキセル、学校のさぼり、店の備品の持ち出しなど、ある程度意思を伴う行為になっている。

第3因子の項目は、服装・ヘアスタイル・持ち物などの外見に手を加えることや、ゲームセンター・クラブ・ディスコへの出入りを通して、高校生として通常許容される範囲を逸脱する行為である。いわゆる『渋谷センター街を闊歩する女子高校生』が比較的頻繁に行っている行為を含む内容になっている。また、いずれの項目も悪いこととしての認識度が低いのが特徴的である。

第4因子の項目は、先述したように、自ら校則・ルールに違反することを認識して行う行為が多くなっている。ところが、多くの項目が悪いことの認識度が第2因子よりも低めで、一番高い項目がレストラン等の備品の持ち出しである。これらは第2因子でもっとも認識度の低い授業中の私語より少し高い程度である。

第5因子の項目は、友人を裏切ったり人を傷つけたり誹謗・中傷するなどの人間関係を損なう行為に関係している。総体的に悪いこととしての認識度は高い。

第6因子の項目は、交通機関の中や公共の場所での周囲を省みない迷惑行為が多い。悪いこととしての認識度は第4因子よりやや高い程度である。

第7因子の項目は誰がみても悪いと認識され、法律に触れる行為として括られる。いずれの項目も平均値が5を超えている。

以上をまとめると、第7因子は明らかに犯罪行為に相当し、ほとんどの大学生が悪いこととして認識している。また、第5因子の人間関係を損なう行為も、多くの大学生にとって悪いことと認識されている。これに対して、第3因子の外見における逸脱行為は、悪いこととしての認識度が低い。第4因子の校則・ルール違反行為、第6因子の交通機関・公共の場での迷惑行為は、悪いこととしての認識は中程度である。第1因子は項目によって評価が分かれ、いわゆる援助交際・風俗産業がらみの真犯行為は悪いことであるが、盛り

場への出入りは余り悪いことと認識されていないようである。第2因子も悪いことの認識度にばらつきがあり、学校や公共の器物損壊、下級生や後輩への無理なことの強要、近隣への迷惑行為は悪いことであるが、授業中の私語や図書館の本の借り出しは、さほど悪いと認識されていない。第1因子、第2因子ともに評価の分かれる項目を含んでいる。

悪さの程度からみると、最も悪いのは第7因子であり、第5因子がこれに次ぎ、第1因子、第2因子および第6因子は中程度として位置付けられ、次いで第4因子、最も低いのが第3因子となっている。大学生の意識においては、犯罪行為に次いで、対人関係を損なう行為が悪いこととして認識されている点が特徴的である。第3因子の『外見に関する行為』、第6因子の『マナー違反行為』は、世代によって評価の分かれるところであり、上の世代にとっては悪いこと・非常識なこととして認識されていても、若年層においてはそうした認識が薄れている可能性もある。また、第4因子の校則違反も悪いこととしての認識度が低くなっており、校則に違反することへの抵抗感がなくなっていることが示唆される。

また、これらの因子は、『悪いことの生起する場所』という点でそれぞれ独立しており、第1因子は盛り場、第2因子は学校もしくは近隣、第3因子は外見、第4因子が主に学校、第5因子は対人関係、第6因子は主に交通機関に関係している。

このように、大学生が考える『高校生にとっての悪いこと』の意識は、『悪さの程度』と『悪いことの生起する場所』によって分節化されていることが明らかになった。

引用文献

内山絢子：性関連の福祉犯被害者の規範意識，犯罪と非行，第92号 p.26～52，1992，青少年更生福祉センター矯正福祉会

安藤直樹，斎藤和志，藤田達雄 他：社会的迷惑に関する研究(1)，日本グループダイナミックス学会，1998年46回大会発表論文集

3. 援助交際について

前にも結果を示したが、われわれの調査項目の中の「お金をもらって知らない人とセックスをする」こと、つまり援助交際についての「悪さ」の判断を男子と女子に分けて詳しく示すと次の表6のようになる。

表 6

	平 均	全 く	ほとんど 悪くない	どちらかとい えば悪くない	どちらかとい えば悪い	かなり悪い	非常に悪い
男子 269	4.58	6.7	5.2	6.7	21.9	24.2	35.3
女子 484	5.17	1.5	1.0	3.7	19.7	21.2	52.9

男子と女子とでは平均点に差があって、女子の方がこの行為を悪いとみる程度が著しく、「非常に悪い」と判定するものが男子では35%、女子では53%になる。この行為を「悪くない」とみるものは男子18.6%、女子では6.2%である。

ところで「知らない人からお金をもらってセックスをした」と答えているものは2名、したいと思っただが行なったことはないものは59名、したいと思っただは行なっていないと答えているものは669名で91.6%になる。

9割以上が援助交際をしたいと思っただは行なっていないのであるあるが、したいと思っただのあるものは8.4%になる。

セックスをすることについての「悪さ」の判断は男子は1.92、女子で2.30である。「悪い」と考えているものは男子で9.3%、女子で13.1%で性交すること自体には非常に許容的である。

車内で異性の身体に触れる（男子5.28、女子5.68）相手が望まない性行為を無理やり行なう（男子5.17、女子5.88）などに比べセックスをすることは悪いとは考えられていない。

この設問における援助交際と、セックスの基本的な相違はお金をもらうということである。知らない人とセックスをして金銭の授受のない場合もあれば、よく知っている人とセックスをしてお金を貰うこともあろう。質問紙調査の設問では微妙なことは聞くのが難しい。しかしセックスは悪いことではないが援助交際は悪いと考えるのは、知らない人が相手であること、お金を貰うことであることによるものであろう。愛の営みとしてのセックスと、売春行為の相違ともいえる。

この質問紙の中に「知らない人からお金をもらってセックスをする」ことに対して「したいと思っただは行なっていない」と答えたもの59名に対して、その理由を書いてもらった

欄がある。

その中の代表的な叙述をあげてみると次の通りである。

- 女子
- お金が欲しかったが、怖くてできなくなった。
 - 自分を安く売るということに抵抗がある。自分のプライドを守るため。
 - 知らない人となんて気持ち悪いから。
 - お金がすごく欲しい時に考えたことはあるが、常識的にいけないと思ったから
 - 伝言ダイヤル殺人事件みたいなこともあるし、知らない人と2人きりになるのはやはり怖いので。
 - お金は欲しかったが良くないことだと友達にいわれ、自分もそう思ったから。
 - 自分はお金には代えがたいものだから。
 - 自分がむなしくなるから。
 - 好きでもない人とするほどお金に困っていなかったから。
 - セックスだけでお金を稼げるとは思いたくない。女の武器だと思いたくない。
 - 援助交際などをしている高校生が自分の地道なバイトより稼いでいるのを聞いて少し思ったが実行しようとは全く思わなかった。
 - お金は簡単に貰えて嬉しいが、やはり自分を大切にしようと思ったから。
 - 神様が悲しむから。
 - ただお金が欲しかったからしたいと思ったが、でもやはり嫌だったから。
 - ほとんど東京に出ないためそういう人に出会わない。
 - 親に申し訳ない。自分でそこまで落ちぶれたくない。

- 男子
- お金が欲しかったから。でも自分の母親と同じ年代の女性とセックスするというのにたえられそうもなかったから。
 - 良心が許さない。
 - 愛のないセックスくすぐさめる。
 - 男なので誰も買うわけがない。自分がもし女だったら必ずやっている。人生の損得がここにあるといっても過言ではない。
 - 多数の女性とセックスしたいが、そんなことはできないし、したら後悔する。
 - 好きでもない人としたくないから。
 - お金をくれる相手がいなかった。
 - お金をくれればよかった。
 - 男なのでお金を貰ってセックスするという概念を持っていなかったから。
 - 金を払うほど大事な事だと思えないし、愛がないのはいやだ。

次にほぼ類似した設問であるが「次にあげる行為を、人から誘われたことがありますか。

誘われたかたは誘いに乗ったかどうかをお答え下さい」と聞き、それに対して「知らない人からお金をもらってセックをする」という項がある。友人から勧誘されたかどうかを想定している。

これに対する回答は標本数728のうち「ある」と答えたものは2名、「誘われたが断った」が73名、「誘われたことはない」が653名（89.7%）である。

誘われたが断ったものが10%あることになる。断った理由を自由に記述してもらったもののうち、代表的なものとして下記のような回答があげられる。

女子の場合

- お金に困っていなかったから。相手がかっこよくなかったから。
 - 気持ちが悪いし、病気になったら困るから。
 - 知らない人だから、気持ち悪いと思った。
 - 気持ち悪いから。いくら貰ってもやりたくない。バイトしたほうがいい。
 - 自分を安売りしたくない。そこまでお金がほしくない。
 - くだらなかったから。自分の価値を落とすしかなかったから。そこまでお金を欲しいと思わなかったから。
 - 病気が恐い。素性を知られると困る。
 - そこらへんの女子高生と同じと思われたことがいやだったし、そういうオヤジが許せなかった
 - たとえ多額なお金であっても、好きではない人としたくはない。
 - 醜いから。このような事をする人とはつきあいがいいから。
 - 塾帰りにおやじに「5万でどう」といわれ、そういう子たちと同じに見られた事がすごくむかついたから。自分の身体が大事だから。
 - 他人と個室に入るのが怖いから。
 - 赤ちゃんができたら困るから。
 - 非常に腹が立たしかった。人の道にはずれた行為はできない。
 - 自分の身体は商品じゃない。
 - そんな事でお金を手に入れたくないし、自分を大切にしたいし、そんな価値のない人間になりたくないから。
 - 相手は中年男性で「若い子はみんなやってるよ」などとわけのわからないことをいっていたのでしゃくにさわったし、そんなことしたいと思わなかったから
- 73名のうち7名の男子が含まれている。断った理由として次のような回答があげられる。

- 男子
- 好きじゃないから。
 - 得体が知れない。

4. かつあげについて

相手をおどして金品をまきあげることが恐喝（かつあげ）という。盛り場などで、しばしば数名の者がひとりに声をかけて、金を貸してくれとって所持金を取り上げる行為である。加害者がひとりであることも被害者が複数であることもある。「ガンをとばした」、「デカイツラするな」などと言いがかりをつけられる行為で被害者となる中学生、高校生は多い。金品を巻き上げられた上、なぐられたり、つきとばされたりする者も多い。

この調査では「人をおどして金品をまきあげられた」ことの有無を尋ねている。標本数は737である。

「おこなったことがある」ものは21名（2.8%）, 「したいと思ったがおこなったことはない」ものは19名（2.6%）, 「したいと思ったことはない」が697（94.6%）である。援助交際と比べると実行したものは多いが、やる気はあったが実行しなかったと言うものは少ない。95%に近いものは「かつあげ」をしようと思ったことはないと答えている。

女子があえてかつあげをしなかった理由としてあげたものの中に次のような記述がある。

- ・やっぱり人の道にはずれることだし、やって見つかった時に多くの人に迷惑がかかるから。

- ・まき上げる相手が強かったら逆になるかもしれないと思って。

男子がかつあげを思いとどまった理由は次の通りである。

- ・警察沙汰になるのが嫌だったから。

- ・ばかばかしいことだから。自分の価値が下がるから。

- ・したいと思ったが逆に取られそうだから。

- ・相手がかわいそうだから。

かつあげについても援助交際と同じように、人から誘われてやろうと思ったことがあったかと質問している。

728人のうち、誘われたが断ったものが13名（1.8%）で、96.6%はかつあげをしようと誘われたことはないと述べている。

思い止まった理由として女子があげたことは誘われたけれども、自分はそんなことはしなくなかった。自分がされたいやだからと考えて断ったと述べている。

男子は、それらに加えて、自分がかつあげに向いてない、やっても気持ちよくその金を使えないから、一度やったときに非常に反省し、もう二度とやらないと思ったからというのがあった。